

令和6年10月3日

会員各位

公益社団法人八幡薬剤師会
会長 有吉 浩文

令和6年度第8回八幡薬剤師会学術研修会のご案内 (第21回市立八幡病院薬薬連携講習会)

平素より、本会事業にご理解・ご協力を賜り厚く御礼申し上げます。
今回は第21回市立八幡病院薬薬連携勉強会として、下記の研修会を開催いたします。
保険薬局勤務薬剤師と北九州市立八幡病院勤務薬剤師の親睦を深めるとともに、薬物治療に
関しての研鑽が目的となっております。
受講のお申し込みは、10月11日(金)までをお願いいたします。

記

日 時： 令和6年10月18日(金) 19:30～21:05
場 所： 健康医療福祉研修会館およびweb研修(Zoom配信)
内 容： ①緩和ケアチームにおける薬剤師の役割について
北九州市立八幡病院診療支援部薬剤課 緒方愛乃 先生
②制吐薬の適正使用とその注意点
北九州市立八幡病院診療支援部薬剤課 副薬剤師長 石井隆義 先生
③がん患者の退院から在宅での看取り
八幡薬剤師会薬局 管理薬剤師 大石博美 先生

要 旨：①当院ではチーム医療の一つとして、患者や家族等の病態による苦痛を和らげ、QOLを向上させることを目的として緩和ケアチームが設置されている。本発表では、病棟薬剤師として行っている薬物療法の支援等の取り組みについて報告する。
②昨年末に「制吐薬適正使用ガイドライン 2023年10月改訂 第3版」が発刊され、書籍としては2015年10月【第2版】から約8年ぶりの改訂となった。今回は非定型抗精神病薬オランザピン(商品名：ジプレキサ[®]ほか)が急性期・遅発期ともに有効で新たな制吐薬として使用可能になった点など、主な改訂ポイントとその注意点についてお話す。
③現在、日本人の2人に1人が、一生のうちのがんと診断を受けると言われており、がん治療は国民にとって極めて重要なものであり、その中で薬物療法が必要な役割を果たしている。さらに、外来で化学療法を受ける患者も増加しており、それに伴って薬局での内服抗がん剤や支持療法に係る薬剤の調剤も増えるなか、薬局薬剤師のがん患者への関わり方も重要になっている。当薬局での対応の経験から、がん患者はがんの診断を受け、外科手術～入院しての治療の後、外来での治療(薬物療法・支持療法)～治療と緩和ケアの同時進行～緩和ケアといった転帰をたどることが多く、その治療の場も入院～外来治療～外来治療と在宅療養の同時進行～在宅での看取りと変化していく。このような社会環境の中で、特定薬剤管理指導2に代表されるような、がん治療や緩和ケアのサポートと医療機関との情報共有が薬局薬剤師には求められており、そのためには共通言語とプロトコルの共有に基づく薬薬連携が極めて重要になると考える。今回は、当薬局における症例を基に当該分野の業務を整理して紹介する。

受講費： 正会員(A会員・B会員・賛助会員・研修会登録者)と学生：無料
直方鞍手薬剤師会会員：500円
非会員(正会員以外全て)：3,000円

申込み：【参加登録】八幡薬剤師会会員・八幡地区非会員・直方鞍手薬剤師会会員の方は、日薬研修プラットフォームよりお申込みください。
<https://nichiyaku.manaable.com>



※受講費を納められた直方鞍手薬剤師会会員・非会員の方には、プラットフォームよりメールが届きます。

受講費振込先：福岡ひびき信用金庫 本店営業部
普通 1073984 公益社団法人八幡薬剤師会

単 位： 日本薬剤師研修センター研修単位 1単位

- ・Zoomへのログインは、必ずご自身のお名前をお願いいたします。
- ・19時30分までにログインしていない方、途中退出の方、継続したログインが確認できない方、司会より退出の連絡がある前にログアウトした方は、受講単位の認定は行えませんので、ご注意くださいようお願いいたします。

以上